

【多面的機能支払】

うつく

しんじょう

そだ

かい

美しい新庄を育てる会



岡山県 備前市 (新庄地区)

I. 地区概要

- 本地区は、備前市の西南部にあり、吉井川東側の沖積平野と比較的低い山からなる地域です。
- 条里制^{注1}の名残を留める優良な水田地域であり、圃場整備を行っていません。
- 近隣には「丸山古墳」や「天神山古墳」等の埋蔵文化財が点在しています。

(注1：古代から中世後期にかけて行われた土地区画(管理)制度)



新庄地区の航空写真（条里制による整然とした水田）

II. 組織設立の経緯

近年、農業従事者の減少や高齢化により、農用地・農道・水路等の維持管理作業等が地域の課題となる中、地区有志が中心となり、地区内の農地維持と施設の老朽化対策、地域の景観形成等を目的に設立。

- ・平成18年度 有志代表(農業委員)による地域への説明 〈地域の同意形成〉
- ・平成19年度 「美しい新庄を育てる会」を設立し、活動開始
- ・平成23年度 農地・水保全管理支払(向上活動)の取組開始
- ・平成26年度 多面的機能支払への移行(農地維持支払・資源向上支払)

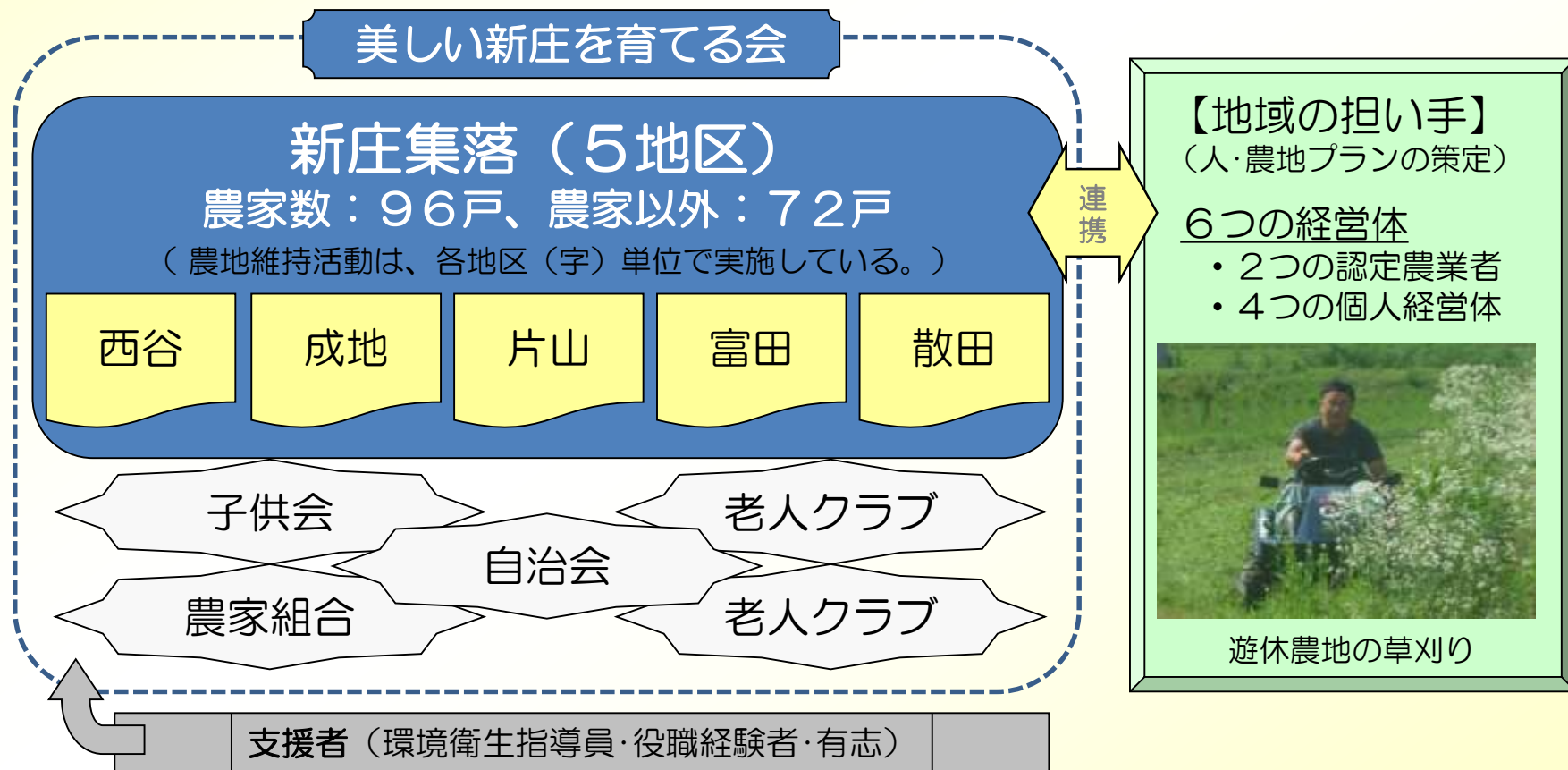


「美しい新庄を育てる会」の総会（地域の総意を図る重要な会議）

Ⅲ. 組織の概要

○ 協定農用地面積 60.3ha (田 : 57.8ha、 畑 : 2.5ha)
[うち農振農用地 56.1ha (田 : 54.0ha、 畑 : 2.0ha)]

○ 組織構成



IV. 活動の内容

1. 農地維持支払 >> 【農地維持活動】



地域ぐるみでの水路の泥上げ



本組織が管理する遊休農用地の保全



地域ぐるみでの農道の草刈り



ため池の草刈りと併せて施設点検



農道の保安全管理（路面への砂利補充）



ゲートの保守管理（点検・注油）

IV. 活動の内容

2. 資源向上支払 >> 【 共同活動 ① 】



地域ぐるみでプランターへの花の植栽



用水路等へプランターを配置し、農村美化



水路の機能診断（破損個所の早期発見）



環境・景観保全のための清掃活動



遊休農地発生防止のため、竹やぶの伐採



事務・技術研修会への参加

IV. 活動の内容

2. 資源向上支払 >> 【 共同活動 ② 】



子供達への伝統農法の継承（手植え）



遊休農地を活用した「こどもの田んぼ」



収穫米を総出で天日干し（はぜ掛け）



農法の継承（2世代で連携した脱穀作業）



地域内外の住民の方との餅つき（収穫祭）



3世代総出で餅づくりの継承

IV. 活動の内容

3. 資源向上支払 >> 【長寿命化活動】



熟練者達との連携による的確な機能診断



老朽化した水路の更新、農道路肩の補修



土水路からコンクリート水路への更新



長寿命化活動で整備した農道舗装（砂利道からコンクリート舗装に）

V. 活動による効果 (成果と将来の姿)

〈 成果 〉

○ 各組織との連携した活動による、住民の地元に対する気持ちの強化

- ・ 平成26年8月の自主防災組織の設立に際し、波及効果を感じた。
- ・ 幼少期より田植え・稲刈り体験をした子どもたちの事業に臨む、己の存在意義は強固である。

**「わたしがしなくちゃあ、だれかするん？
こどものたんぼは、わたしのしごとよ！」**

- ・ 子どもに引っ張られて、若いお母さん方が田んぼに出てくるようになった。

○ 活動組織が主体となることで、地域内外の担い手との連携が強化されつつある。



〈 将来の姿 〉

「より重層的な展開」の実現

- ・ 子供会との連携 ⇒ 若い親たちの地元への関心の高揚
- ・ 子供会・老人クラブ等、地区住民のあらゆる年齢層の交流や「話し合い」の場の提供
⇒ 住民の多様な価値観の形成、ワークショップ形式等、住民の想いのきめ細やかな汲み上げ



【 より充実した “農村環境保全活動” の展開 】

VI. キャッチフリーズ

☆「美しい新庄を育てる会」の
キャッチフリーズ

“地域のことは
皆んなで楽しく！”



☆参加するときに
子どもが持ってくるもの

“やる気と
元気と
お友達！”

Ⅶ. その他

○ 新庄地区の稲作以外の生産物

- ・イチジク(備前市の特産品。品種は主に榎井ドーフィン)
- ・桃(清水白桃等) ・ぶどう(オーロラブラック・ピオーネ・瀬戸ジャイアンツ)
- ・さくらんぼ(佐藤錦) ・黒豆 ・スナップエンドウ ・夏秋なす
- ・施設園芸(ミニトマト・きゅうり・小松菜・みず菜・しろ菜等)



ぶどう(瀬戸ジャイアンツ)



備前市の特産品(イチジク)

○ 新庄地区の農村としての戦後の様子

昭和30年代から50年代頃までは、ぶどう農家が10数軒

昭和40年代には、イチゴ農家も数軒あった。この頃から兼業と担い手の高齢化が進行

昭和60年頃からは、市場の多様なニーズに対応できず、果樹生産は衰退の一途

現在、活躍しているのは60~70代の男性で、後継者のいる農家は一部のみ

○ まとめ

本地域は、農業振興地域であるため、工場誘致も宅地化も縁がなく、特筆すべきことのない地域ですが、日本各地域の多くの農村集落も同様の問題を抱えていることから、私たちの活躍が一例として示せるよう、SNS(ブログ)を活用した情報発信をしています。

今後も、この交付金を活用しながら、美しいふるさと「新庄」の美しい田園を愛情を持って維持・活用し、多くの住民参加を得ながら活動を盛り立てていけるよう願っています。